

NMO OfficeLetter



シンガポール出張報告

9月初め、シンガポールとベトナムホーチミンに行ってきた。5月の連休にはベトナムハノイを訪れた。ベトナムはハノイとホーチミンの違いも大きかった。シンガポールは近代的で、東アジアの情報集積中心地で、狭い国土ながら今後の日本のあるべき姿を先取りしている印象が強かった。2日間の滞在だったが、非常に勉強になった。

シンガポールのデータ

シンガポールの国土面積は東京23区とほぼ同じ。その狭い面積に約600万人の人が暮らしている。人口密度的には東京の半分になる。人口割合は、中国系住民が4分の3を占め、最大の勢力だ。残りはマレー系とその他になる。この人口割合を保つことが重要で、特に最近中国系住民の人口減少が目立っている。言葉は国語がマレー語、公用語として英語、中国語、マレー語、タミール語が通用する。宗教は、仏教、イスラム教、キリスト教、道教、ヒンズー教が主な宗教だ。

政治体制、内政

基本的な体制は立憲共和政である。国としては、1965年8月に成立した。元首は任期6年の大統領が務める。議会は一院制で約90名の議員がいる。政府は、首相が政務を統率し、内政は比較的安定している。約7万人の軍隊もあり、2年間の義務兵役制度がある。ASEAN諸国とは友好協力関係を築き、アジア太平洋地区ではアメリカとの関係を重視している。



超巨大ホテル「マリーナベイサンズ」

若い人にベンチャーでのインターンシップ

国を挙げてIT立国を目指し起業家の育成のため、この15年間で200人の学生をシリコンバレーなどにインターンシップで派遣する制度を行っている。アジアナンバーワンといわれる国立シンガポール大学の学生を選抜し、世界各地のベンチャー企業に派遣。帰国してから彼らが多く起業し、国の発展に貢献している。このような将来を見た戦略は、同様の小国日本にも大きなヒントを与えてくれる。ようするに、国を挙げて一致団結しての方針が明快だ。



日本輸入の高級果物

シンガポールのビジネス

国土が狭いが、意外と製造業も多い。サービス業も多く進出しており、東アジアの情報集約基地になっている。今後力を入れる分野も明快で、製造業、IT産業、医療、環境、水、交通インフラ、観光など政府が明快に方針を打ち出している。医療と観光をミックスした「医療ツーリズム」などはその典型だ。1週間高度医療機関で検査入院をしてもらい、その後1週間観光で現地に滞在してもらう。対象は中東の富裕層だ。いかに狭い国土で高い付加価値を提供するビジネスを発展さすか。そのためには、政府は投資を惜しまない。

シンガポールのすごさ

とにかく発想が壮大。マリーナベイサンズのホテルも56階建てで屋上にプールや展望台を設けるという奇想天外の設計になっている。あまりに壮大で建設会社がしり込みし、並み居るゼネコンが下りてしまった。最後は韓国のゼネコンが建設したのだが、どうも施工に問題があるようだがおかまいなしに観光客が押し寄せる。周辺に壮大なショッピングセンターを建設し、観光と買い物消費を見事に結び付けている。また、ホテルの周辺に自動車レースのコースを作り、9月末には市内を駆け抜けるF1の大会が開催される。これを見ようと世界中のファンが押し寄せる。この間、宿泊施設は満室となる。ベイエリアにある一番の観光スポットのマーライオンも、時の首相の肝いりで建設された。



マーライオン像と
市内中心部の高層ビル群

とにかく国土が狭く、知恵で生きないと国が伸びないので、一生懸命だ。

シンガポールの戦略

国を発展させるには、もともと国土が狭いので人口増加を現在の割合で保つには、新しい土地が必要となる。海に面しているので埋め立ても行い、かつ市内の遊休土地を転用する政策を進めている。そこをビジネス、観光、住居の3つに活用し、人口減少を防ぎ国力の活力維持に努めている。10年前にはベイサンズ地区にはなかった、超巨大ホテルの建設が終わり、周辺のベイサンズエリアには巨大植物園、観覧車などが建設され、一大観光スポットになっている。国際会議の開催が世界で一番多いのもシンガポール。とにかく、戦略的な計画を立案し、重点的に投資し、付加価値を高める。国土が狭く、知恵で生きていこうとする国の、したたかな戦略が随所に垣間見える。



超巨大ホテル内のロビー

JETRO シンガポール事務所

今回いろいろな情報をゲットできたのは、JETRO シンガポール事務所の永田さん。初回のブリーフィングは無料だから、いろいろ有益な情報をコストなしで提供してもらえる。このオフィスは市内のど真ん中にあり、行きつくにも努力が必要だ。ホテルからタクシーはOKだったが、JETROの周辺でタクシーをゲットするのは大変だった。



巨大なショッピングセンター

今回、初めて訪れたがその壮大な発想にびっくりした。わが日本国もこれからいっそうの高齢化が進むが、未来の日本のお手本になるようなことが、至る所で見ることができる。



ホーチミン出張報告

5月にベトナムハノイに15年ぶりに海外出張で訪問した。その際にベトナムを理解するなら南部の商都ホーチミンを見ておかないとダメと言われて、今回1日半だけだったが行ってきた。ハノイは首都、ホーチミンは商都であり、その違いも明確だった。ホーチミンレポートをお届けする。

ホーチミンという都市

人口の統計では800万人とも言われているが、一時的な出稼ぎ労働者も含むと、1000万人以上ではないかと思わせるほど、活気に満ちている商都ホーチミン（以下HCMと略）。直接海には面してはいないが、市内には大きな川が流れていて、なにやら運河のようになっている。



HCM市内の裏通り

泊まったホテルの真正面に運河があり、朝方には大きなコンテナ船が往来している。移動はタクシーが主体で、バスもあるが乗りにくい。地下鉄はいま建設中だ。街中は少し裏通りに行くと、まだ非常に雑然として汚い。大きな国際会議やスポーツの国際大会の開催もこれからだろう。

市内は建設ラッシュ

市内はあちこちで建設現場の看板が立ち並び、地下鉄工事や高層マンションの建設がラッシュを迎えている。市内の目抜き通りには大きなビルが林立し、少し離れた郊外には多くの新築マンションが建設中だ。JICAの協力で日本のゼネコンの技術者集団が多く滞在している。HCMの旧地名はサイゴンであり、以前は南ベトナムの首都だった。



HCM市内に開店した「すき家」

ベトナム戦争に負けて都市名をHCMと改称し、南部の中心都市になった。マレーシア、インドネシア、タイに隣接し、多くの工業団地が建設され、多くの海外資本が入ってきている。製造業、縫製業、食品加工業などの工場が多くHCMの周辺に点在する。

ホーチミンの市内

市内は建設ラッシュで現場作業員の労働者のバイクで溢れかえっている。朝7時前後の通勤時には、バイクの集団で道路が見えないくらいだ。そのため、コンビニエンスストア、飲食店、カフェなどが乱立し、日本食のレストランも多々ある。しかし、中心部にも依然として旧態依然とした店舗も多く、なにやら新しい息吹と古色蒼然とした文化が入り交じり、不思議な光景を醸し出している。最近中心部に高島屋が新店舗を出店した。EAONも郊外に店舗を構えている。中産階級の消費がこ



HCM市内のCVSミニストップ

れからどんどん伸びてくると思われる。なにしろ、若年層の働き手が多いのは魅力的だ。

ホーチミンのビジネス

近隣に工業団地があり、製造業の工場が多い。市内周辺からバイクで通勤する人がやたら目立つ。ハノイは首都でどちらかと言えば製造業、組立業が多かったという印象だが、HCMはサービス業系の会社が多い。取引という面ではハノイより数段勝っている。物資が流通する過程では、ベトナムはHCM



HCM市内の車とバイクの混雑

経由でものが流れるのだという印象を強くした。日本系の飲食業も多く、中産階級が今後増えれば、彼らの胃袋や消費には今後も期待ができる。ハノイも同じだが、バイク、住居が優先順位で今後車（マイカー）が消費の中心になる予感がする。

ホーチミンと日本

成岡と縁のある東大阪の金属精密加工業の企業は、HCM郊外の工業団地に現地法人を設立した。JICAの支援で地下鉄工事が真っ最中だ。人口に占める若年層の割合が高いから、今後の消費活動も期待できる。物流がハノイより格段にいいので、日本からはハノイより飛行機で2時間余分にかかるが、東南アジアの中継地としては、HCMは今後魅力的だ。今年の11月に初めて大型の国際会議が中部のダナンで開催される。ようやく国際的な舞台に少しずつ登場してきているという段階だ。国を挙げての国際イベントを開催する実力は、残念ながらまだない。それより、生活のインフラ整備に今後投資が行われるだろう。交通、上下水道、物流、環境などのビジネスがHCM周辺で成長することは間違いない。



HCM市内の高層ビル

ホーチミンの今後

訪問して数日後の新聞に、国産乗用車の生産に乗り出すと大きく報じられていた。現在、自動車はほとんどが輸入で、一部部品を輸入し外資の企業が組み立ては行っているが、国産の乗用車を製造する技術レベルには、まだない。今後、国産乗用車の自国での生産が始まると、部品製造、物流、組み立て加工、完成車検査など、多くの工程を自前で行わなければならない。果たしてこれが国の成長の起爆剤になるか。非常に期待と不安が入り交じった発展途上国ならではの、魅力と期待に溢れたステージに、いまいる。

今後、東南アジアを見るときに、ベトナム特にHCMの動向は外せない。大きな成長のキードライバーになる可能性がある。一度、訪問されることをお勧めする。

注目 企業 のご紹介

アイ'エムセップ (I'MSEP) 株式会社 様

【社 名】 アイ'エムセップ株式会社 (I'MSEP CO., Ltd.)

【代表取締役】 伊藤 靖彦

【住 所 地】 <本 社> 〒600-8813 京都府京都市下京区中堂寺南町134番地
<研究開発部> 〒610-0332 京都府京田辺市興戸地藏谷1番地 D-egg 310号室

【TEL/FAX】 0774-63-2051

【創 業】 平成18年 (2006年)

【資 本 金】 3,500万円

【事 業 内 容】 1. 環境・エネルギー・資源、ナノテクノロジーに関わる電気化学リアクター・電子デバイスの研究開発
2. 熔融塩電気化学プロセスによる新材料・新素材の研究開発
3. 熔融塩電気化学プロセスに関わる装置・システム・材料の研究開発
4. 熔融塩電気化学プロセスに関わる技術指導・技術アドバイザー業務

【U R L】 <http://www.imsep.co.jp/index.php>



会社のロゴマーク

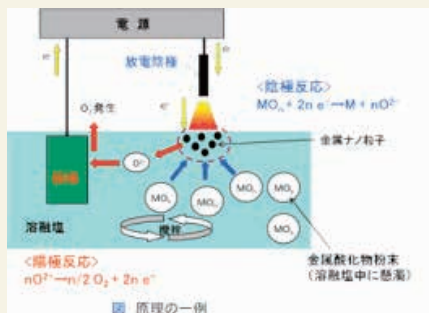
「熔融塩」という日ごろ聞き慣れない技術売り、イノベーションを巻き起こそうとする大学発ベンチャー企業「アイ'エムセップ (I'MSEP) 株式会社」。社名の由来は、熔融塩電気化学プロセス (Molten Salt Electrochemical Process) の頭文字をとり、社名の冒頭に付した「アイ (I)」には、「Innovation」の「I」と同時に、自分「I」こそが「MSEP (エムセップ)」の真の開拓者であるという、社員一人ひとりの自負と覚悟がこめられている。平成18年同志が相集い、大学発ベンチャー企業「アイ'エムセ

ップ (I'MSEP) 株式会社」は創立された。

「熔融塩」とは狭い意味では「有機塩、無機塩を問わず、塩が融解してできたイオン性を帯びた液体」。熔融塩の特徴としては、(1) 高温でも蒸気圧が低くさらさらした液体 (2) 化学的に安定し電気化学窓が広い (3) 種々の物質をよく溶かし溶解度が大きい (4) 導電率が高い (5) 放射線に対する耐性に富む などが挙げられ、今後大きな期待が持てる技術だ。



代表取締役の伊藤社長



入居のDegg

弁護士のデスクから

交通事故「保険会社・弁護士の使い方」

今回より12回にわたり、身の回りで起こりうるトラブルについて、お話をさせていただきます。回数に限りがありますが、少しでもご参考になればと思っております。

第1回目は交通事故にあった場合の対応に関してです。事故後の相手側との話し合いに関するご質問としてよくいただくのは、「相手側保険会社から示談の提案がきましたが、提示金額が妥当なのかどうか分かりません。弁護士を付けて交渉をすると金額は増えるのでしょうか。」というご質問です。一般論としては、相手側保険会社から提示される金額は、裁判になった場合に参考にされることが多い基準 (裁判基準) よりも低い金額であることが多いと思います。交通事故における賠償額は、たとえば、治療費、通院交通費、休業損害 (仕事を休んだことによって給料が減ったりした場合の補償)、慰謝料といったような各項目ごとに金額評価を

加福雅和 弁護士

〒604-8187
京都市中京区東洞院通御池下る笹屋町436番地
永和御池ビル3階 302号 加福法律事務所
TEL: 075-251-7222 FAX: 075-251-7272
Email: mkafuku@kafuku-law.jp



することになっています。相手側保険会社から提示される金額の中で、低めに設定されることが多いのは慰謝料の額です。慰謝料というのは、いくらが正しい金額なのかについて法律で明確に決められているわけではなく、ある程度の幅があるものなので、保険会社の提示金額は、裁判基準よりも低いことが多いです。依頼を受けた弁護士としては裁判基準を参考に金額を計算して相手側に請求することが多いと思いますので、交渉次第では保険会社の最初の提示金額より増えることがあります (受け取れる金額については「過失割合」も影響を与えますが、あらためてお話いたします)。最近は弁護士費用を自分の保険会社が支払ってくれる保険が多くなっています。ある程度の治療期間のある方は、慰謝料の額に差が出る場合がありますので、早目に弁護士にご相談されることをお勧めいたします。

11月度 勉強会のご案内

NMO 勉強会 京都例会

<http://www.nmo.ne.jp/business/it-kyt.html>

第191回

日時：11月16日（木）19：00～21：00
…第3木曜日です

会場：COCON烏丸4階シティラボ内セミナールーム
<http://www.citylabo-ino.com/>
（市営地下鉄烏丸線「四条駅」下車 / 阪急京都線「烏丸駅」下車すぐ「地下鉄02番出口」より1階正面玄関へ）

講師：株式会社N製作所 代表取締役

テーマ：わが社のIT戦略

第22期（2017年度後期） 成岡秀夫経営塾 マネジメント基本講座シリーズ

時間 13：30～17：00

場所 京都市下京区烏丸四條 COCON烏丸ビル4階シティラボ内
セミナールームにて

形式 成岡からの講義形式 / 毎回自由参加

費用 毎回5,000円（テキスト代金・諸費用込み）

定員 10名で先着順 / 申込後のキャンセルはできません

申込 ホームページ、Eメール、FAX、電話にてお申込みください

スケジュールと内容

講座番号	開講日	曜日	課題
22-2	2017/11/12	日曜日	決算書・試算表を理解する ～損益計算書～
22-3	2017/12/10	日曜日	決算書・試算表を分析する ～キャッシュフロー計算書～
22-4	2018/01/14	日曜日	設備投資と資金繰りの基本 ～投資判断基準と現実の資金繰り～
22-5	2018/02/18	日曜日	管理会計と財務会計の違いと活用 ～収益管理の方法～
22-6	2018/03/11	日曜日	経営計画を作成する ～中期計画を作成する際のポイント～

編集後記

はや10月の末になった。カレンダーの残りも少なくなり、ぼちぼち年末年始の予定も決めないといけない時期になった。弊社は10月から新年度、第14期に入る。設立以来足かけ15年になった。来年の2月3日（土）には15周年の感謝の集いと、あと5年かけた自社の事業承継のプランをお示ししようと計画 중이다。多くのご参加を期待している。（な）

成岡マネジメントオフィス事務所通信

BUSINESS MANAGEMENT & COORDINATION

NMO
株式会社 成岡マネジメントオフィス

発行人：成岡秀夫
〒603-8377 京都市北区衣笠西御所ノ内町26番地
TEL：075-366-6611 FAX：075-366-6100
E-mail：info@nmo.ne.jp
送付先の変更は、上記へEメールまたはFAXでお知らせください。

今月の 推薦図書

未来の年表 ～人口減少日本で これから起きること～

著者：河合 雅司
発行：講談社
発行日：2017年06月20日
定価：760円＋税
ページ数：205ページ
版 型：新書版



人口減少にまつわる日々の変化は極めてわずかだが、影響を感じにくいゆえに我々を無関心にする。ゆっくりではあるが、真綿で首を絞められるように、確実に国民一人ひとりの暮らしが蝕まれる。著者はこのことを「静かなる有事」と命名した。そして、従来の拡大路線と訣別し、戦略的に縮むことを提案している。日本よりも人口規模が小さくとも、豊かな国はいくつもある。そのために、2017年から100年後まで年代順に何が、どのように起こるのかをカレンダー形式で示した。これを契機に発想の転換が求められる。

目次

- 第1部：人口減少カレンダー
2017年「おばあちゃん大国」に変化 / 2018年国立大学が倒産の危機に / 2019年IT技術者の不足から技術大国の地位が揺らぐ / 2020年女性の2人に1人が50歳以上に / 2021年介護離職が大量発生する / 2022年「ひとり暮らし社会」が本格化する / 以下略
- 第2部：日本を救う10の処方箋～次世代のために、いま取り組むこと～戦略的に縮む / 豊かさを維持する / 脱東京一極集中 / 少子化対策

難題が飛び込む男 土光敏夫 ～なぜこの人に 任せたくなるのか～

著者：伊丹 敬之
発行：日本経済新聞出版社
発行日：2017年09月01日
定価：1,800円＋税
ページ数：270ページ
版 型：四六版



岡山の農家の出身で東京の工業高校を出て、タービンのエンジニアとして技術者生活を送った人が、その後石川島播磨重工業の社長になり、さらに東芝の社長にと懇請され、その後経団連の会長を引き受け、最後には第二次臨時行政調査会の会長として国の行政改革をリードした。これら3つの難題が、ほぼ15年おきに飛び込んできている。再建の対象となった3つの組織は特に関係があったのではなく、土光さんを見込んで持ち込まれ、落下傘のように組織に乗り込んだ。そして、見事に結果を出した。本書はその再建のリーダーとしてのあり方を考えるための教科書である。

目次

- 序章：再建の連続という人生
第1章：人間タービンの登場
第2章：しょっぴかれるように本社社長に
第3章：大型経営者の登場
第4章：東芝再建への苦闘
第5章：メザシの土光さん
第6章：母の教え
第7章：現場の達人、凍とした背中
終章：日に新たに、日に新たななり

NMOホームページ

<http://www.nmo.ne.jp>

勉強会の様子や講演活動の記録など掲載しています。メールマガジンのお申し込みもこちらからどうぞ。

成岡マネジメント

検索